

熱帯林業誌の紙面サイズと誌名変更についての アンケート調査結果と編集委員会での検討結果のお知らせ

編集委員会

昨年夏以来、海外林業研究会々員の皆様、同総会出席者の皆様、そして一般読者の皆様を対象とした本誌70号での公告と、3回にわたって「熱帯林業」誌の①誌面の大きさと②誌名にかかる変更の是非について、アンケートを実施してまいりました。回答をいただきました数は、決して多いとは言えませんが、その結果、誌面の大きさと誌名について、現状から変更することを支持される方が、共に80%を超えました。この結果を受けて、本誌編集委員会は以下の通りに雑誌の名前と大きさの変更を71号から実施することに決定しました。

① 雑誌の大きさについて：

最近応募される原稿はすべてワープロによるA4判の大きさで作成されていますので、図や表もそのサイズで作成されてきます。それをA5判に合わせるために、執筆者に修正の労を煩わせ、あるいは縮小のために文字の張り替えなどにより印刷編集単価が割高になっていたこと、せっかくの写真なども小さく縮小するために、現場の状況を正確に伝えることが難しいなどの問題がありました。そこで、多くの学会誌や週刊誌などで読者の方に馴染みが深いA4変形判（A4より縦が約2cm短い）に変更することとしました。また、文字の大きさも1ポイントあげて、10ポイントとすることとしました。

② 雑誌の名前について：

「熱帯林業」誌は1966年に旧シリーズ1号発刊以来41年を経過し、新シリーズとして復刊（1984年）後にして23年を迎えました。この間の経過については、前号（70号）にて、特集記事として編集し、皆様にお知らせした通りであります。そこで述べられてありますように、この間に社会情勢の変化は大きく、雑誌の名前と記事の実態の乖離がだんだんと大きくなってきておりました。また、中核となってきた海外林業研究会々員数の減少傾向が、林野庁の組織定員の漸減と共に顕著になってまいりました。そこで、近年の環境重視の社会情勢に加え、この際より幅広い読者層の開拓の意図も含めて、熱帯に限らず、また林業に限らず、広く海外の森林と林業に関する情報を発信する雑誌とすることが望ましいという結論になりました。そこで、回答数をもっとも多かった「海外林業」に森林というキーワードを加えて、誌名「海外の森林と林業」とすることに決定しました。

今回のアンケートの回答に際して、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。今後の編集の中で、皆様のご意見を活かすよう編集委員一同さらに努力してまいりたい所存ですので、今後も従前同様にご支援のほどよろしくお願い申し上げます。